



組織再編に向けての議論を展開 支部第1回分会長会議開催

東京支部は12月14日、地本会議室に於いて、第1回分会長会議を開催した。議題は①組織強化拡大の取り組みについて②2024春闘の取り組みについて③労働条件改善の取り組みについて④その他、の4点を書記長から提起して議論してきた。

①については、分会大会や執行委員会、職場集会等に支部執行部が積極的に参加して、相互討論・情勢認識の一致を図る。また、支部大会で確認した「統括センターの枠組みを基本とした地区分会」体制への移行について、支部でいくつかの（案）を作成し、分会長会議で提起する。合意が得られれば速やかに着手し、次回大会で規約改正する。

②については、職場過半数代表者選挙、新入社員対策を積極的に取り組む。東京支部春闘行動を取り組む（詳細は別途指示）、第28回春闘標語コンクールへ積極的に応募していただきたい。

③については、「エルダー・シニア職場実態調査」の取り組みとして、アンケート調査をする。内容については執行部で検討中。あわせて出向者交流会（仮称）の開催を企画する。「安全・仕事総点検運動」を展開し要求を確立する。などなど。

④については、指示・事務連絡・情報類の各分会への配布方について、支部に取りに来ることを基本としながら、現状を鑑みてメール便の利用も並行して進める。現在、支部として名簿を作成中。

<出された意見>

- ➡2024年3月に新宿運輸区が新宿営業統括センターと合併し、新宿統括センターになる。
- ➡運転系統の組織の在り方は、どのように考えているのか？
- ➡来年春に分会の再編を考えているが、どのように進めていけばよいのか？
- ➡職場過半数代表者選挙は大事な取り組みだと思う。できるところは候補者を立てて取り組む必要がある。若い人の意見を聞きながら職場を回ることも大切。支部の方で代表者を集めて議論する場を設けてほしい。
- ➡年金問題も絡むが、JESSでは65歳以降どうするのか、アンケート（64歳の人対象）をとっている。もう一度65歳以降を考え直すような内容になっている。
- ➡職場過半数代表者選挙には、国労組合員は出せていない。国労はこの間白紙で投票している。

組織再編に向けて多くの意見が出されました。みなさん不安や戸惑い、そしてなかなか将来展望が見えない中でこのような議論をするのは、正直言ってきついと思います。しかし現状を考えたとき、避けては通れない議論です。ほとんどの組合員がエルダー・シニア社員となる中、職場はバラバラですが、所属している職場、そして元職場とのつながりを大切に、一人ひとりが目的意識を持って頑張っていきましょう！

不当解雇されて丸13年

JALは早期に解決をはかれ

12月22日、JAL本社前にて「JAL争議の早期全面解決をめざす本社大包围行動」が取り組まれた。710人の支援する仲間が結集し、寒風の中、支援する仲間たちが連帯のあいさつ、そして寒さも吹き飛ばすような熱いシュプレヒコールなどを行った。国労からも東日本本部をはじめ東京支部まで数本の旗をなびかせ、夜の天王洲を盛り上げた。久しぶりに元気の出る大きな取り組みだった。



JAL争議の概要

2010年1月19日、政府主導の下でJALの「破綻と再建」が進められ、その過程で同年12月31日にパイロット81名と客室乗務員84名が年齢と病欠歴を基準に解雇された。その後、裁判等で争ってきたが、未だに解決には至っていない。

この整理解雇について当時の稲森会長は「経営上165名を解雇する必要はなかった」と記者会見で語っている。JALは解雇後にパイロット約600人、客室乗務員約6700人を新規に採用しながら、被解雇者を一人も乗務職として職場に戻していない。

現在、都労委で争っている。JALには①団交拒否②不誠実交渉③組合間差別④優先雇用事件、国土交通省には「JALの再建を主導した」責任追究。

参加者の声 声 声

- ☞久しぶりに大勢の集会で元気が出ました。闘う組織に仲間は結集します！寒かったあ～
- ☞JAL争議は解決していない！そんな思いで多くの仲間が集まった。寒かったですが元気をもらいました！
- ☞本当によく集まったな、という感じ。大みそかに解雇され、14回目の正月を迎えなければならない当事者の話しに、思わず涙腺がゆるんだ。不安を抱えながら闘い続けてきたJHUの仲間に敬意を表すると同時に、私も頑張らねば、という思いが募った集会だった。